

2020年3月2日
東北電力株式会社
ソナス株式会社
NTTドコモ東北支社

『UNISONet』を活用した送電設備の監視に係わる実証試験を開始 ～送電設備の保守業務の効率化を目指して～

このたび、東北電力株式会社（以下、東北電力）、ソナス株式会社（以下、ソナス）、株式会社 NTT ドコモ 東北支社（以下、ドコモ）は、山間部における送電設備の保守業務の効率化を進める観点から、マルチホップ無線『UNISONet（ユニゾネット）』を活用した送電設備の監視に係わる実証試験を福島県内で開始いたしました。

『UNISONet』は、ソナスが独自開発したマルチホップ無線で、長距離のデータ通信や低消費電力といった特徴を持つ通信ネットワークであるLPWA（省電力広域無線通信技術）の一つであり、今回の実証試験では、この『UNISONet』を搭載した通信システムおよびドコモの通信に関するノウハウを活用し、東北電力が所有する山間部の送電設備の監視において、通信端末間のデータ送受信状況の確認や実環境での耐久性等を確認し、山間部の送電設備への導入可否を検証することとしております。

東北電力では、現在、送電鉄塔に設置している航空障害灯の点灯状況を現場パトロールによる目視にて確認していますが、送電設備は広い範囲に数多く設置されているため、特に山間部や遠方にある送電設備の場合、現地までの移動に時間を要している状況であり、安全面や業務の効率化といった観点から様々な対策を検討しております。

こうした中、今回、実証試験を行う『UNISONet』を活用して、山間部や遠方の設備の場合でも、現地の鉄塔に設置した通信端末から遠隔でデータ取得することで、事務所にいながら送電設備の状況を確認することが可能となるなど、業務の効率化が期待されております。

今後、本実証試験の結果等を踏まえて、送電設備の保守業務へのLPWAの導入を目指してまいります。

以上